

今季の“地元の新米”の「放射能測定結果」をお知らせします！

～地元生産者のお米は全て「検出下限値1Bq/kg以下」不検出で、

毎日安心して召し上がっていただけます！～

毎週の『ひまわり』と共に、放射能汚染に立ち向かう各ローカル生産者の姿勢や考え方など随時お伝えしています。遅くなりましたが、2012年度産「地元の新米」の放射性物質測定結果をお知らせします。

比較的高濃度の汚染地域として、最も心配された須賀川市仁井田地域（生産者：森文男）の「地元の新米＝もち米」について、「玄米」についてはわずかに「検出下限値」を超える微量のセシウムが検出されましたが、「もち米」は全て「白米＝精米」でのご案内・お届けとなるため、何の問題もなく限りなくゼロに近い「不検出」のものをお届けできます（その他「ひとめぼれ」「コシヒカリ」「黒米」については、生産者の必死の努力もあって、以下の通り“玄米”でも「不検出」の測定結果を得ることができました）。

今回の「不検出」の理由について、一つには、報道もされているように産地の多くは稲へのセシウムの移行・吸収がしづらい「粘土質」の土壌であること、そして二つには、何より生産者の必死の努力があり、「生産者交流会」での測定や実験結果として、その土壌からの除染の効果が確認できた良化肥料や微生物の力による堆肥の活用、そして用水路からの放射性物質の移入阻止の対策など、その意識的な努力が実った結果でした。

※「検出下限」に関して、私たちは核種の『合算値』で「1～5Bq/kg以下」での測定を行なうと共に、その上で「不検出」の（例えば乳幼児の離乳食としても）安心できる商品をお届けしていきます（もちろん測定の結果数値が出た場合でも必ずお知らせします）。

※「検出下限」は放射能測定機器の精度の違いと、検査時間によって大幅に左右されます。放射線は核種よりランダムに放出されるため、より時間を長く確保した方が精密な下限値となります。従いましてあいコープふくしまでは精度の高い「ゲルマニウム半導体検出器」によって測定しています。

単位：ベクレル/kg

商品（対象試料）	生産者名	産地（場所）	採取日時	測定結果			
				ヨウ素131	セシウム134	セシウム137	合算値
ひとめぼれ 玄米	大河原正信	須賀川市 （露地栽培）	10月	検出せず (<0,73)	検出せず (<0,73)	検出せず (<0,76)	—
コシヒカリ 玄米	大河原正信	須賀川市 （露地栽培）	10月	検出せず (<0,75)	検出せず (<0,62)	検出せず (<0,83)	—
コシヒカリ 玄米	森農園	須賀川市 （露地栽培）	10月	検出せず (<0,82)	検出せず (<0,84)	検出せず (<0,76)	—
もち米 玄米	森農園	須賀川市 （露地栽培）	10月	検出せず (<0,88)	0,88 (<0,76)	1,3 (<0,78)	2,18
黒米 玄米	森農園	須賀川市 （露地栽培）	10月	検出せず (<0,90)	検出せず (<0,85)	検出せず (<0,76)	—

<参考>

※これまで『ローカル商品のご案内』などでもお伝えしてきた通り、供給してきた「かぼちゃ」「ジャガイモ」「ねぎ」（三春町・おもとグループ）、「各種トマト」（須賀川市・岡部洋一）、「ナス」（郡山市・八代昌子）、「小松菜」「みず菜」（須賀川市・柳沼孝政）、「ミニキュウリ」（須賀川市・渡辺文雄）についても、「検出下限1Bq/kg以下」にて不検出の結果を得ています。

※尚、『野菜セット・愛菜箱』（福島県愛農会）については、各单品ごとに「検出下限5Bq/kg以下」にて測定し、不検出の結果を得ています。